

令和3年度事業報告



社会福祉法人 双樹会

目 次

法人本部	2
事業所別実績報告	
特別養護老人ホーム 陽光の家	6
陽光の家 短期入所生活介護	13
陽光の家 通所介護事業所	15
陽光の家 居宅介護支援事業所	18
広島市城山・五日市観音地域包括支援センター	20

【取り巻く環境】

前年度から引き続いて新型コロナウイルスの感染拡大があり、感染対策や消耗品の確保、利用者及び職員の継続的な検査やワクチン接種の対応に追われた。感染状況に伴って面会の中止やオンライン面会への切替、予定行事の変更や中止、物品の確保などに対応した。

令和3年度介護報酬改定では、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて、2040年も見据えながら、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」を図ることを目的とされた。

また、2022年2月にはウクライナ情勢の緊張や新型コロナウイルスの終息に向けて、需要拡大したことによる光熱費など値上げの影響を受けた。

法人本部

1. 役員及び評議員

今年度は理事及び監事、評議員の任期満了に伴い改選を行った。栗園理事が退任し、佐藤理事が選任された。津田評議員が退任し、増田評議員が選任された。

理事・監事及び評議員名簿

令和4年3月31日現在

理事長	中村 貴志				
理事	佐々木 昇	塚野 健	天田 美津子	佐藤 誠	松井 誠
監事	安本 洋子	大成 洋子			
評議員	川崎 正雄	石田 博文	沖元 道博	吉田 一男	伊賀 浩子
	中尾 光法	瀬井 武三	増田 昭美		

2. 理事会・評議員会・監査の開催状況

【理事会】

回	日時	場所	議案	出席状況 上段：理事 下段：監事
1	R3. 6. 5 13 : 30～	ナカムラ病院 研修室	(1) 令和2年度事業報告並びに決算について (2) 評議員選任・解任委員会委員の選任 (3) 次期役員候補者の承認について (4) 評議員候補者の推薦について (5) 評議員会の日時及び場所並びに議 (6) 評議員選任・解任委員会の招集につい て (7) 諸規定の承認について	6/6 2/2
2	R3. 7. 8	書面決議	(1) 理事長の互選について	6/6 2/2
3	R4. 1. 25	書面決議	(1) 介護ロボット・ICT導入支援事業 (2) 評議員会決議案について	6/6 2/2
4	R4. 3. 19 13 : 30～	ナカムラ病院 研修室	(1) 令和3年度補正予算について (2) 令和4年度事業計画について (3) 令和4年度予算について (4) 就業規則変更について (5) 監事の候補者について	6/6 1/2

【評議員会】

回	日時	場所	議案	出席状況
1	R3. 6. 19 13 : 30～	ナカムラ病院 研修室	(1) 令和2年度決算書類について (2) 理事及び監事の選任について	6/8
2	R4. 2. 2	書面決議	(1) 介護ロボット・ICT導入支援事業 について	8/8

【評議員選任・解任委員会】

回	日時	場所	議案	出席状況
1	R3. 6. 11	書面決議	(1) 評議員の選任について	3/3

3. 監査

- (1) 令和3年度社会福祉施設等指導監査について
書面による指導監査が行われた。

<文書指摘事項>

・なし

4. 施設整備等

<施設修繕（大型）工事等>

時期	内容	場所	業者名	金額
7月	照明器具 LED 化工事		(株)エイコー	3,795,000 円
10月	二階トイレ改修工事	特養	(株)エイコー	209,000 円
3月	電話設備工事	特養	中国電設工業(株)	440,000 円
3月	ナースコール更新及び ICT 導入	特養	リコージャパン(株)	22,961,400 円
合計				27,405,400 円

<器具備品購入等>

時期	内容	場所	業者名	金額
4月	ノートパソコン購入	包括	リコージャパン(株)	128,810 円
8月	空調機更新工事（厨房）	厨房	ホシザキ中国(株)	280,000 円
3月	スマートフォン（9台）	特養	兼松コミュニケーションズ*	1,005,378 円
3月	ナースコール関連ソフト	特養	リコージャパン(株)	2,433,200 円
合計				3,847,380 円

5. 職員研修実施状況

(1) 施設内研修一覧

日付	研修名	講師・発表者	人数
11/1	BCP研修 災害・感染症	施設長	7

社外講師

日付	研修名	講師	人数
7/29	第1 四半期事業計画進捗会議	外部講師： (有)コンサルティングブレ イン 縫部 毅 氏	7
10/28	第2 四半期事業目標進捗会議		6
12/23	個人・部門目標策定について		6

(2) 施設外研修受講一覧（抜粋）

時期	研修名	実施機関	人数	職種
4/10	技能実習追加研修	シルバーサービス振興会	1	特養・介護職
4/15	居宅介護支援事業者研修会	広島市域居宅介護支援事業者協議会	1	居宅・ケアマネ
5/12	認知症介護実践研修	広島市老人福祉施設連盟	1	特養・介護職
7/15	広島市佐伯ブロック研修会	広島県介護支援専門員協会	1	居宅・ケアマネ
7/15	総会及び自主研修会	広島市域居宅支援事業者協議会	1	居宅・ケアマネ
7/30	認知症研修会 Web 開催	広島市佐伯区医師会	2	包括・ケアマネ

9/5	「適切なケアマネジメント手法」実践セミナー	(株)日本総合研究所	1	包括・ケアマネ
9/10	社会福祉法人研修会	日本公認会計士協会中国会	1	事務職
9/14	広島県虐待対応研修	広島県社会福祉士会	2	包括・ケアマネ
9/15	広島市佐伯ブロック研修会	広島県介護支援専門員協会	1	居宅・ケアマネ
9/17	広島県介護支援専門員更新研修	広島県介護支援専門員協会	3	包括・ケアマネ
10/14	介護予防ケアマネジメント研修	広島市	2	包括・ケアマネ
10/26	高齢者雇用促進セミナー	広島労働局	1	事務職
10/26	高齢者虐待防止研修会	広島市地域包括ケア推進課	1	特養・相談員
11/5	地域リハ専門職人材育成ステップアップ研修	広島県地域リハビリテーション広域支援センター	1	包括・保健師
11/10	両立支援コーディネーター基礎研修	労働者健康安全機構	1	事務職
11/11	第2回目同行研修	広島市佐伯区在宅医療・介護連携推進事業	1	包括・ケアマネ
11/20	知ってほしい！高次脳機能障害	広島市精神保健課	1	居宅・ケアマネ
11/24	広島市地域包括支援センター職員研修	広島市地域包括ケア推進課	3	居宅・ケアマネ
12/8	パワハラ防止対策、育児・介護説明会	広島労働局	1	事務職
12/10	認知症研修会	広島市西部認知症疾患医療センター	2	包括・保健師 包括・ケアマネ
12/11	広島県主任介護支援専門員更新研修	広島県介護支援専門員協会	1	包括・ケアマネ
12/15	広島県生活支援コーディネーター養成研修	広島市高齢福祉部	1	包括・ケアマネ
12/20	総会及び自主研修会	広島市域居宅支援事業者協議会	1	居宅・ケアマネ
1/12	介護予防ケアマネジメント研修	佐伯区介護支援専門員	1	居宅・ケアマネ
1/13	広島県短期集中予防サービス活用研修	広島県地域包括ケア推進センター	1	包括・保健師
1/19	広島市佐伯区ブロック研修	広島県介護支援専門員協会	1	居宅・ケアマネ
1/31	ACP専門職向け標準教材研修会	広島市連合地区地域保健対策協議会	1	包括・ケアマネ
2/12	広島市サポート医フォローアップ研修	広島市地域包括ケア推進課	1	包括・保健師
2/16	介護職員処遇改善支援補助金解説セミナー	応研(株)	1	事務職
2/21	広島市認定調査員現任研修	広島市介護保険課	2	居宅・ケアマネ 包括・ケアマネ
3/10	居宅介護支援事業者研修	広島市域居宅介護支援事業者	2	居宅・ケアマネ 包括・ケアマネ
3/12	広島市サポート医フォローアップ研修	広島市西部認知症疾患医療センター	2	包括・ケアマネ
3/25	地域包括支援センター職員研修	佐伯区地域支えあい課	1	包括・ケアマネ

全体で82件、延べ96人が施設外研修へ参加した。うちオンラインは64件、78人であった。

6. 資格取得支援制度利用状況

研修名	主催者	人数
介護支援専門員 更新研修Ⅱ	広島県介護支援専門員協会	3
主任介護支援専門員更新研修	広島県介護支援専門員協会	2
合計	5名	

合計 2件 5名 研修等費用+交通費 170,000円支出

7. 助成金活用状況

事業主体	事業名	支給決定金額
厚生労働省広島労働局	人材開発支援助成金	60,200円
	両立支援等助成金	156,181円
広島県	感染防止対策支援事業補助金	40,000円
広島市	負担軽減費用助成事業費補助金	54,000円
合計		310,381円

事業所別実績報告

1. 特別養護老人ホーム 陽光の家

1. 入所者の状況

(ア) 年間入所者の推移

3年度は、退所者15名・入所者13名、令和4年3月31日現在、在籍45名で終了した。退所者の内訳は、死亡退所12名（施設で看取り介護を行った）、長期入院による退所2名となり、退所者は前年度と同数であった。延べ利用者数は、特養入所者16,347名、空床82名、合計16,429名で前年度より800名減少。稼働率は、90.0%で前年度から4.4%減少、1日当たり45.0名が利用したこととなった。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月末在籍数	43	46	44	45	44	46	46	45	44	45	43	45	
入所	0	2	0	3	0	1	3	1	0	1	0	2	13
退所	3	0	1	0	1	1	3	1	1	2	2	0	15
延べ利用者数	1,346	1,384	1,348	1,351	1,394	1,371	1,444	1,352	1,397	1,373	1,208	1,379	16,347
空床利用	0	18	5	7	0	0	0	0	0	0	21	31	82
合計	1,346	1,402	1,353	1,358	1,394	1,371	1,444	1,352	1,397	1,373	1,229	1,410	16,429
1日平均実績	44.9	45.2	45.1	43.8	45.0	45.7	46.6	45.1	45.1	44.3	43.9	45.5	45.0
前年度実績	1,321	1,352	1,454	1,537	1,503	1,432	1,480	1,465	1,465	1,480	1,326	1,414	17,229
対比	25	50	▲101	▲179	▲109	▲61	▲36	▲113	▲68	▲107	▲97	▲4	▲800

入所16名の退所日から次入所までの日数は延べ1,149日で1名当たり88.4日となり、2年度29.1日より59.3日長くなった。また、3年度に医療機関に入院した者は19名（内3名は入院中退所）で、延べ入院日数は461日であった。

(イ) 要介護度別利用者人数（1日平均）

令和4年3月末現在、45名の入所者のうち全てが要介護3以上。年間平均介護度は、4.16で前年より0.06高くなった。

	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計	平均介護度
3年度	0	0.4	8.9	18.5	17.0	44.8	4.16
前年度	0.7	1.9	5.3	21.4	17.7	47.0	4.10
対比	▲0.7	▲1.5	3.6	▲2.9	▲0.7	▲2.2	0.06

(ウ) 入所者年齢別及び平均年齢（令和4年3月末日現在）

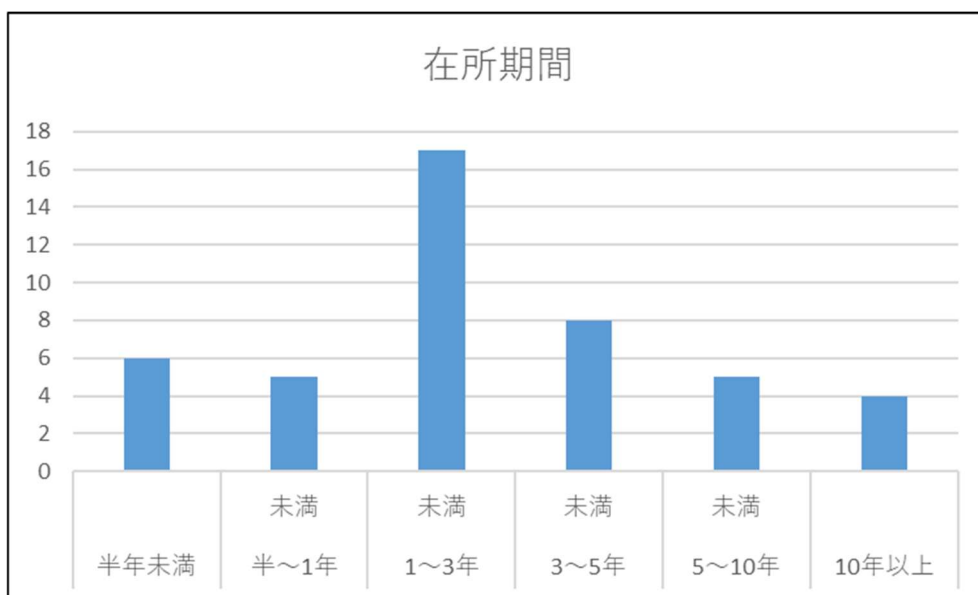
男性と女性の入所人数は、男性3名・女性42名。平均年齢は、前年度の87歳7ヶ月から86歳8ヶ月へ、最高年齢者は、前年度の107歳から108歳となった。

歳	60代	70代	80代	90代	100代	合計	平均
男性	0	1	2	0	0	3	78歳10か月
女性	2	4	18	16	2	42	87歳5か月
合計	2	5	20	16	2	45	86歳8か月
最高年齢	108歳		最少年齢	62歳			

(エ) 入所者在所期間（令和4年3月末日現在）

年度末在籍者の平均在所期間は、3年4.1ヶ月であった。最長在所者は男性10年・女性13年2ヶ月となった。

期間	半年未満	半～1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10年以上	合計	平均
男性	0	0	2	0	1	0	3	3年4.7か月
女性	6	5	15	8	4	4	42	3年4か月
合計	6	5	17	8	5	4	45	3年4.1か月
	最長在所		13年2か月		最短在所		16日	



(才) 保険者別人数 (令和4年3月末日現在)

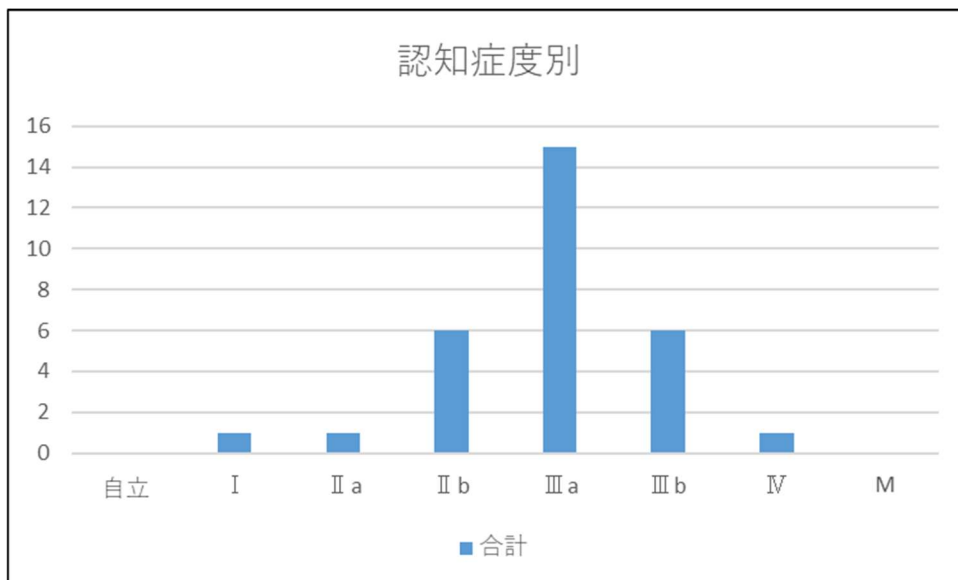
前年同日と比べ佐伯区と西・中区、東・南区、世羅町はそれぞれ1名減少、廿日市、北広島町、田布施町がそれぞれ1名増加した。佐伯区の占有率は66.7%。

保険者	佐伯区	西・中区	東・南区	安佐南区	廿日市	大竹市	大崎上島	北広島町	田布施町	合計
男性	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
女性	27	5	1	2	3	1	1	1	1	42
合計	30	5	1	2	3	1	1	1	1	45

(力) 認知症度別人数 (令和4年3月末日現在)

下記の表のとおり、45名の入所者のうち37名が認知症度Ⅲ以上。前年比Ⅲ以上1名の増加となった。

認知症度	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	合計
男性	0	0	0	2	0	0	1	0	3
女性	0	1	1	4	15	6	13	2	42
合計	0	1	1	6	15	6	14	2	45



(キ) 入所申込者の状況

令和4年3月末の申込者数は240名。申込者の介護度分布は下表のとおり。

	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計
令和3年3月末	18	24	67	75	56	240
令和4年3月末	18	24	70	83	45	240

II. 職員の状況

[]内の人数は部署間異動

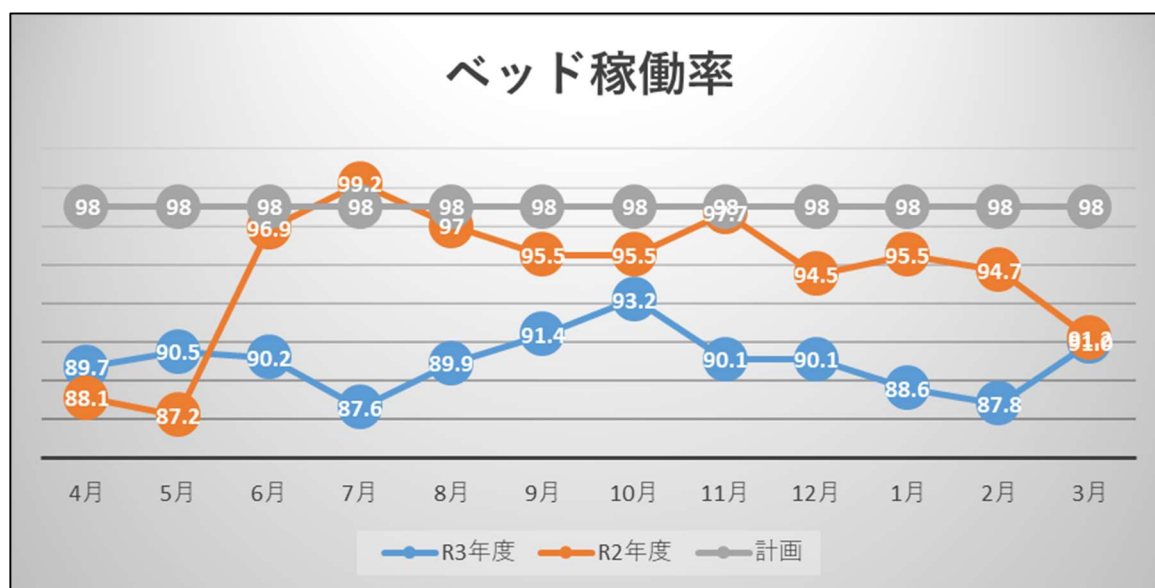
特養・短期入所 職種	令和3年度期首(4月)			期中		期末(3月)			配置 基準
	人数	内非常勤	常勤換算	採用[異動]	退職[異動]	人数	内非常勤	常勤換算	
施設長	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	1
医師	1	1	0.1	0	0	1	1	0.1	1
生活相談員	2	0	1.2	0	1	1	0	1.0	1
介護支援専門員	2	0	2.0	0	1	1	0	1.0	1
機能訓練指導員	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	1
看護職	5	0	5.0	6[1]	6	5	1	4.3	2
内 正看護師	2	0	2.0	0	2	0	0	2.3	
内 准看護師	3	0	3.0	6[1]	4	5	1	2.0	介護・看護
介護職	26	5	23.4	7[1]	7[1]	24	6	21.4	17
内 介護福祉士	23	4	20.9	5	6[1]	19	4	17.2	
内 その他	3	1	2.5	2[1]	1	5	5	4.2	
管理栄養士	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	1
当直専門員	3	3	2.4	1	1	3	3	2.5	
事務員	3	0	3.0	0	0	3	0	3.0	
合計	45	9	40.1	14	16	41	11	36.3	

III. 令和3年度事業計画の実施状況について

- ベッド稼働率 98%・・・実績 90.0%

退所(看取り)の利用者が多く、入所の調整が追いつかず計画の稼働率を下回る結果となった。令和元年度末からの新型コロナウイルスの流行によりスムーズな入所ができなかった。令和2年

度に引き続いて、インフルエンザにもノロウイルスにも罹患することなく終わられた。また、新型コロナウイルスにも罹患せずに終わった。



① 自立支援・重度化防止の取組の推進

- ・機能訓練、栄養、口腔の一体的な連携強化
- ・科学的介護の取組
- ・アウトカム評価の取組
- ・専門性向上のための各委員会活動
- ・自立支援促進の取組
- ・認知症対応力向上

< 報告事項 >

介護報酬改定に伴い、各職種が一体的に科学的介護に取り組んだ。介護職は、褥瘡予防、排泄ケアのアウトカム評価の取組、栄養は栄養ケアの強化、機能訓練は年間を通じて心身機能の評価を行った。介護・看護・機能訓練指導員が共同で実施を行った。

[ノーリフトケア委員会]

各利用者様の移乗方法などについて検討を行う。

委員会開催：5/11、6/26、7/15、8/17、10/19、11/23、12/17

[食事・口腔委員会]

口腔内の清潔を保持し誤嚥性肺炎を防ぐ取り組みを行っている。

委員会開催：6/18、7/20、8/20、10/14、12/10

[排泄委員会]

一人一人に適した排泄ケアを目指し、定時の排泄から個別時間に合わせた、排泄支援を行う。
8/12には大王製紙と勉強会を行う。

委員会開催：6/24、7/9、8/12、11/8、12/13、1/19

[入浴委員会]

入浴マニュアルの見直し、入浴形態の精査、入浴表や人数調整等を行う。

委員会開催：6/25、7/21、8/23、11/9、12/14

② 人材確保・育成・定着

- ・年間計画での外部研修への参加、勉強会の開催
- ・介護機器導入による業務効率化の推進

< 報告事項 >

令和3年度の介護報酬改定や虐待、身体拘束、感染症、看取り介護、褥瘡予防と様々なテーマで勉強会を行った。また、令和4年3月にはナースコールの更新工事に伴い、眠りスキャンを導入し業務効率化に取り組んだ。

勉強会開催：4/23・26・28、7/5・28・29

③ 地域貢献

- ・介護教室、介護相談会開催
- ・地域行事への参加、協力、連携
- ・講師派遣
- ・地区社協との協力連携
- ・ボランティア受入、連携

< 報告事項 >

令和3年度広島市受託家族介護者教室 主催

開催日	テーマ	講師	参加人数
(なし)			

【ボランティア定期】

活動	部署	活動日時	名称
書道クラブ	通所	(中止)	伊賀 浩子 様
話し相手・歌など	特養	(中止)	観西ボランティア
外出支援	特養	(中止)	観西ボランティア 計7回14名

【ボランティア演芸 (スポット)】

来園日	団体等名称	内容
(中止)	実り会	歌・踊り
(中止)	琴伝流大正琴	琴演奏
(中止)	そよ風	歌・踊り

● 実習生の受け入れ

実習依頼元		実習期間	人数	備考
1	広島福祉専門学校	R3. 9. 27～10. 27	1	介護福祉科 2年
		R3. 10. 1～11. 4	2	介護福祉科 2年
		R3. 11. 25～12. 10	2	介護福祉科 1年
2	IGL 医療福祉専門学校	R3. 6. 21～7. 24	1	介護福祉学科 2年
		R3. 11. 8～11. 20	1	介護福祉学科 2年
3	福祉リソースカレッジ	R3. 7. 29～11. 29	2	社会福祉士通信
4	ヒューマンウェルフェア	R3. 10. 15～R4. 3. 18	1	社会福祉士通信
合計		4 団体	10 人	

IV. 食事（栄養・調理）実施状況

栄養ケアプランは、カンファレンス等で情報共有しその都度食事への反映を行い、利用者本人や家族への説明を行った。これにより、利用者それぞれの状態に合わせた食事の提供と栄養状態の改善を図ることができた。また、食を通してコミュニケーションを図るように季節感のある食事の提供を行った。

(ア) 食事形態 (令和4年3月31日 現在)

食事形態	常食	キザミ	極キザミ	ペースト	経管栄養
食事数	8	10	11	12	4

(イ) 年間療養食加算取得状況

	貧血食	糖尿病食	心臓病食	腎臓病食	脂質異常
実人数	1	10	0	4	0
延べ日数	365	2,746	0	826	0

(ウ) 栄養年報 (令和4年3月31日 現在)

区分/栄養量	エネルギー kcal	たんぱく質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄 mg	ビタミンA μg	ビタミンB1 mg
栄養所要量	1,392	43.9	30.7	413	5.9	613	0.56
栄養摂取量	1,519	62.7	42.2	653	6.3	662	0.82

栄養所要量 (計画) 栄養摂取量 (実績)

(エ) 行事食等

内容		実施日	内容		実施日
端午の節句	散らし寿司	5/5	開設記念日	おやつバイキング	5/16
七夕	七夕そーめん、ゼリー	7/7	夏祭り	ランチバイキング	7/25
土用の丑の日	うなぎの蒲焼	7/28	敬老会	松花堂弁当	9/12
敬老の日	散らし寿司	9/20	十五夜	月見うどん	9/21

忘年会	ランチバイキング	12/12	クリスマス	ツリーケーキ	12/25
大晦日	年越しそば	12/31	新年	おせち料理	1/1
七草	七草がゆ	1/7	鏡開き	白玉入りぜんざい	1/9、13
節分	巻き寿司	2/3	バレンタイン	コーヒココアプリン	2/14
ひな祭り	三色押し寿司	3/3			
	郷土料理	毎月1回	誕生日		毎月1回

V. 防災訓練等

(ア) 自衛消防訓練実施状況

実施日	訓練内容	参加者				備考
		入所者	通所	職員	計	
11.8	総合訓練（夜間想定）	17	0	11	28	消防職員・1名立会

(イ) 非常食備蓄状況

（令和4年3月31日現在）

種類	水	主食			副食	
		ご飯	粥	ミキサー粥	レトルト食品	缶詰
数量	20×264本	600食	200食	50食	340食	360食

VI. 広島市受託事業

広島市受託事業は、利用者なし。

受託業務名	実績金額	実利用者	延べ利用者
広島市重度身体障害者入浴サービス事業	0	0	0
広島市生活指導短期宿泊事業	0	0	0

VII. クレーム対応・・・0件

VIII. 医療機関受診事故・・・1件

① 令和3年10月4日（月） 9:20頃発生。要介護3 96歳 女性

洗面所前の廊下にて仰臥位で転倒している本人発見。左大腿部頸部骨折。

令和3年10月7日 広島市報告

2. 陽光の家 短期入所生活介護事業所

I. 利用者の状況

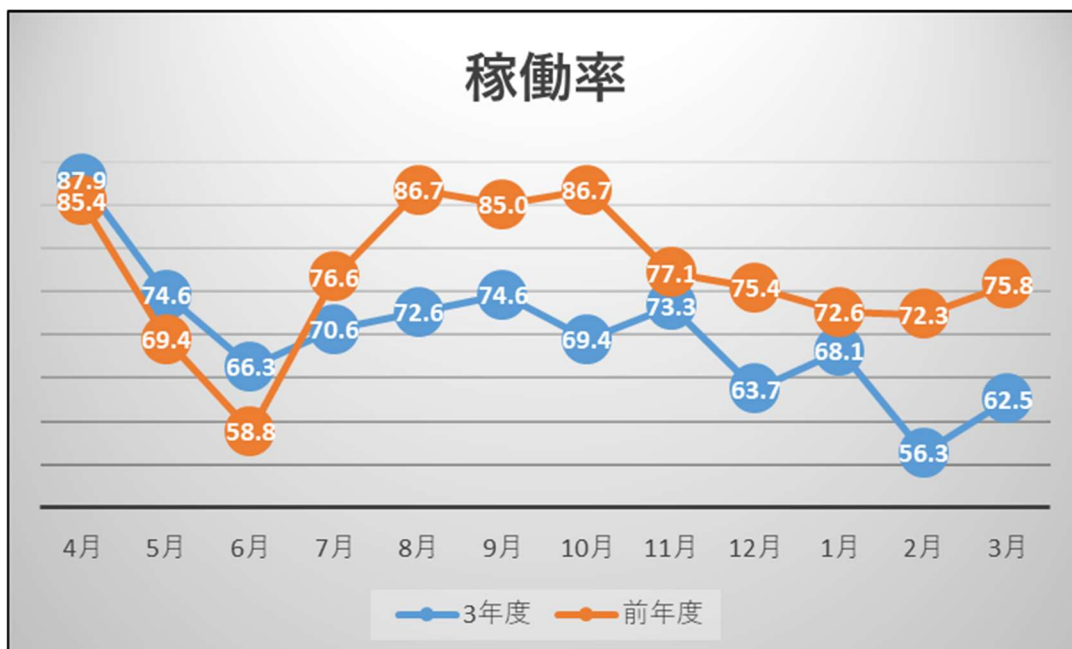
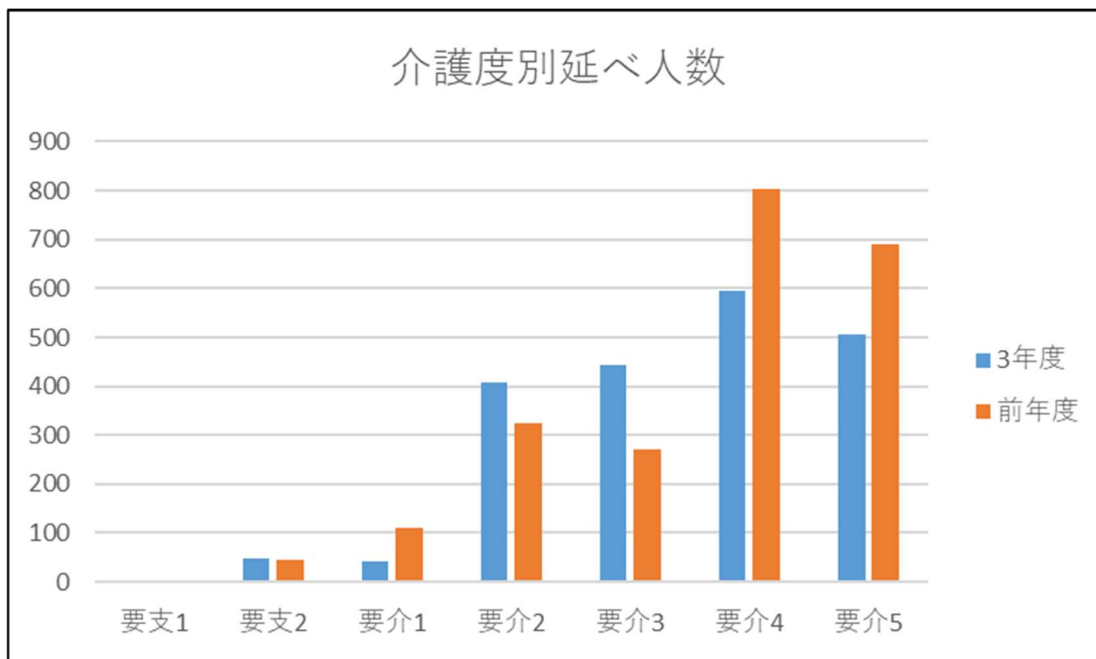
3年度は、月平均実利用者は20.8名、前年対比3.2名減。延べ利用者数の前年対比は199名減少。

介護度	要支1	要支2	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計	平均		
									介護度	実利用者	稼働率
3年度	0	48	42	409	443	596	507	2,045	3.5	20.8	72.1
前年度	0	46	109	323	272	804	690	2,244	3.7	24	77.4
対比	0	2	▲ 67	86	171	▲ 208	▲ 183	▲ 199	▲ 0.2	▲ 3.2	▲ 5.3

II. 令和3年度事業計画の実施状況について

- ベッド稼働率 85%・・・実績 72.1%

ベッド稼働率は前年 77.4%から 72.1%へ 5.3%減少となった。



- ・在宅介護の継続支援（定期的・緊急時の利用対応）

< 報告事項 >

緊急時の利用時、担当ケアマネジャーと調整を図りスムーズな空きベッドを活用に努めた。また、家族の体調不良などで、利用延期など、ベッド調整行い対応を行った。在宅支援を行う為に、担当者会議に積極的に参加した。

Ⅲ. クレーム対応[令和3年度苦情報告]・・・1件

① 令和3年5月21日(金) 14時15分頃 受付

担当ケアマネより、左踵部皮膚がめくれ浸出液が出てかなり悪い状態であると担当医から報告があったとのこと。家族からも直接は言いにくいが対応について不満がある、と伝えられる。

Ⅳ. 医療機関受診事故・・・0件

3. 陽光の家 通所介護事業所

I. 利用者の状況

(ア) 1月当たり平均実利用者数

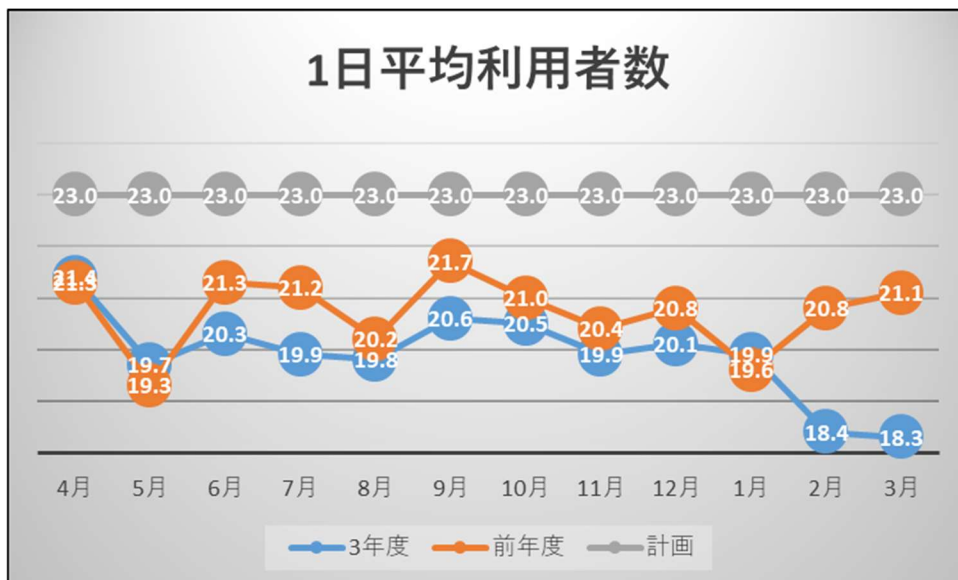
令和3年度の1月当りの平均利用者数は、合計5.0名の減少となった。

	介護	総合事業	合計
3年度	50.8	9.0	59.8
前年度	52.8	12.0	64.8
対比	▲2.0	▲3.0	▲5.0

(イ) 介護度別延べ人数対比

延べ人数は、前年度から369名減、1日当りの利用人数は19.9名で前年比0.8名減少となった。介護度別では、要支援者等が193名減少し、要介護者が176名減少した。

介護度	事対者	要支1	要支2	小計	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	小計	合計	1日平均利用者
3年度	85	121	401	607	1,613	1,339	1,452	654	431	5,489	6,096	19.9
前年度	100	181	519	800	1,595	1,637	1,318	636	479	5,665	6,465	20.7
対比	▲15	▲60	▲118	▲193	18	▲298	134	18	▲48	▲176	▲369	▲0.8



II. 職員の状況

[]内の人数は部署間異動

通所介護 職種	令和3年度期首(4月)			期中		期末(3月)			配置 基準
	人数	内非常勤	常勤換算	採用[異動]	退職[異動]	人数	内非常勤	常勤換算	
生活相談員	2	0	1.5	0	0	2	0	1.5	1
機能訓練指導員	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	1
看護職	3	1	2.8	1	1[1]	3	2	2.2	
内 正看護師	2	1	1.8	0	0	2	1	1.8	
内 准看護師	1	0	1.0	1	1[1]	1	0	0.4	
介護職	7	0	5.5	3	3[1]	7	2	5.0	5
内 介護福祉士	6	0	4.5	2	2	7	2	5.0	
内 その他	1	0	1.0	1	1[1]	0	0	0.0	
管理栄養士	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	
合計	14	1	11.8	4	4	14	4	10.7	

III. 令和3年度事業計画の実施状況について

(1) 通所介護事業所(介護予防) [定員35名] 1日平均利用者数 19.9名

*介護給付利用者 51人 (日曜日および元日以外稼働)

総合事業利用者 8.8人 (月～金曜日稼働)

実利用者 介護43人 総合事業8人

新規利用者10人獲得 廃止21人

<報告事項>

1日平均23名目標に対し、年間19.9名となった。廃止(長期入院)が年間21名、総合事業15名の計画に対し、最終月で8名となった。実利用者は、介護65名の目標に対し、平均51人で14人マイナス。新規利用者36人目標に対して10人獲得。新型コロナウイルス関連で6日間の自主休業を行った。

① 自立支援・重度化防止の取組の推進

- ・機能訓練、栄養、口腔の一体的な取組
- ・科学的介護の取組
- ・自宅入浴へ向けた入浴介助の取組

< 報告事項 >

機能訓練加算Ⅰ・Ⅱの両加算80%以上を目標にし、76%で未達成となった。

② 専門性の高いサービス提供の実践

- ・中重度の対象者であっても社会性の維持を図り在宅生活の継続のケアを計画的に実施するプログラム作成（中重度ケア体制加算）
- ・認知症の症状の進行の緩和のケアを計画的に実施するプログラムの作成（認知症ケア加算）
- ・年間計画での勉強会の実施

< 報告事項 >

中重度者ケア体制加算（要介護3以上）50%の目標→48%で未達成。

認知症加算（認知症度Ⅲ以上）30%の目標→39.5%で達成。

4名の認知症実践者研修修了者が評価・記録を実施。

時間延長と夕食サービスは以下の表のとおり。

所要時間	4-5 時間	5-6 時間	6-7 時間	7-8 時間	合計	夕食サービス
3 年度	76	57	4,910	449	5,492	0
	1.4%	1.0%	89.4%	8.2%		
前年度	58	2,736	2,034	834	5,662	0
	1.0%	48.3%	35.9%	14.7%		

部署内の勉強会の実施内容

テーマ	実施日	参加人数
身体拘束・虐待防止	4/16	8
感染症対策（食中毒）	6/14	資料配布
災害対策	7/16	7
介護マニュアル、排泄	8/11	8
感染症対策	9/25	資料配布
ノーリフトケア（腰痛予防）	10/13	9
コンプライアンス・個人情報	11/17	9
認知症ケア	12/15	9

業務マニュアルの見直しと活用

3大介護：入浴・食事・排泄のマニュアル改訂実施

Ⅳ. クレーム対応[令和3年度苦情報告]・・・0件

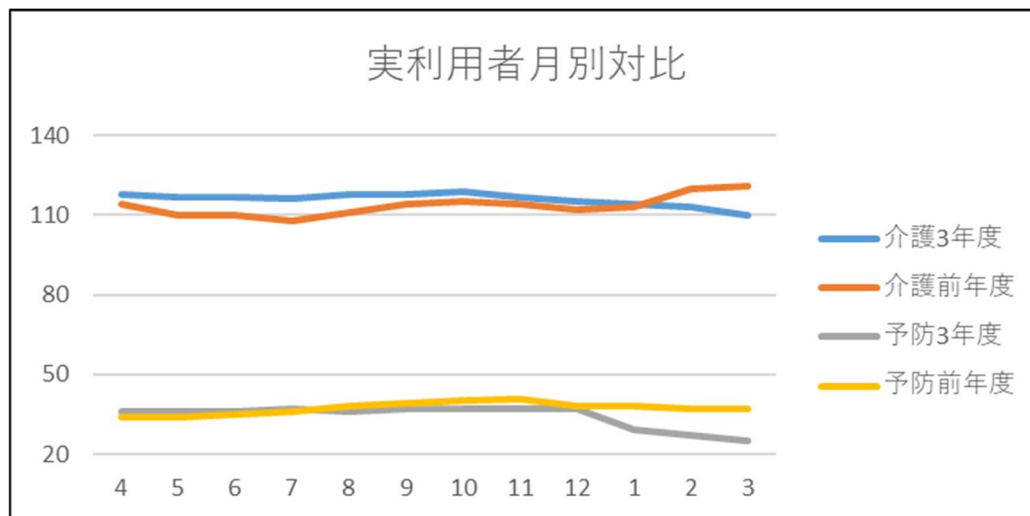
4. 陽光の家 居宅介護支援事業所

I. 利用者の状況

(ア) 実利用者数（介護）（介護予防 各地域包括支援センターより受託）

令和3年度の1月当たりの件数は、116.0件。前年度より月平均2.5件増加。介護予防給付は、月平均34.2件。前年より3.1件減少している。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
介護3年度	118	117	117	116	118	118	119	117	115	114	113	110	116.0
介護前年度	114	110	110	108	111	114	115	114	112	113	120	121	113.5
予防3年度	36	36	36	37	36	37	37	37	37	29	27	25	34.2
予防前年度	34	34	35	36	38	39	40	41	38	38	37	37	37.3



(イ) 介護度別延べ人数

前年対比で要介護は全体で30名増加、そのうち介護予防等が37名減少。

介護度	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	介予	合計	1か月平均
3年度	572	389	215	129	87	410	1,802	150.2
%	31.8	21.6	11.9	7.2	4.8	22.8		
前年度	584	397	187	103	91	447	1,809	150.8
%	32.3	21.9	10.3	5.7	5.0	24.7		
対比	▲12	▲8	28	26	▲4	▲37	▲7	▲1

II. 職員の状況

[]内の人数は部署間異動

居宅介護支援 職種	令和3年度期首(4月)			期中		期末(3月)		
	人数	内非常勤	常勤換算	採用[異動]	退職[異動]	人数	内非常勤	常勤換算
介護支援専門員	3	0	3.0	1[1]	1	3	0	3.0
合計	3	0	3	1	1	3	0	3

Ⅲ. 令和3年度事業計画の実施状況について

① 住み慣れた地域で継続的な生活の支援

- ・状態の維持・改善を目指した自立支援型ケアマネジメントの実践

< 報告事項 >

【要介護度の維持改善】

介護保険更新結果

維持	改善	悪化	合計
30	9	27	66

悪化が40.9%で、半数を下回った。

【自立支援型のケアマネジメントの実践】

計画作成

介護	予防（総合事業含む）
138	18

ICF、ポジティブプラン、インフォーマルサービスの利用を考えプラン作成に努めた。

【24時間対応相談における対応】

- ・24時間連絡体制の確保 24時間対応 8件
- ・公正中立・質の高いケアマネジメントの実践

【事業所内研修の実施・事業所外研修の参加】

【フィードバック情報活用のマネジメントの実践】

【AI・ICT活用のマネジメント実践】

- ・地域包括支援センターとの情報連携

< 報告事項 >

施設外研修、事例検討会、佐伯区自主勉強会などに参加した。

担当者会議開催 79 回のうち、医療職・看護師・MSW・PT・OT・ST・薬剤師 20 名。リハビリ会議 43 回（オンライン含む）。

② 医療機関等との情報連携強化

- ・主治医との情報連携
- ・中重度者・看取り期の利用者対応

【入院時、平時からの医療機関との連携促進】

【退院・退所時の在宅生活への円滑な支援】

< 報告事項 >

相談・苦情 本人・家族から 50 件、包括から 39 件、病院から 5 件、その他から 6 件、苦情は 1 件。

初回加算 18、入院時連携加算ⅠⅡ 38

入院時には、入院先へ連絡情報提供を行い、情報の共有、スムーズな在宅復帰に努めた。

IV. クレーム対応[令和3年度苦情報告]・・・1件

① 申出日：令和3年4月30日 15：00頃 申出者 利用者

[内容] 新しい担当のケアマネが来て通帳や光熱費の支払いなど聞かれたことに気分を害された。

[対応] 謝罪を行う。

6. 広島市城山・五日市観音地域包括支援センター

I. 事業実施状況

事業実施場所：広島市佐伯区千同一丁目30-6 高東ビル1階

圏域：広島市立城山中学校及び同五日市観音中学校 校区内

圏域高齢者人口：9,462人 高齢化率：29.3% (令和4年3月現在)

		八幡	観音西	観音	合計
高齢者人口(人)	R4.3	3,932	3,356	2,995	10,283
	R3.3	3,707	2,457	3,298	9,462
	対比	225	899	▲303	821
高齢者率(%)	R4.3	34.0	30.5	24.9	29.7
	R3.3	31.9	31.4	25.7	29.3
	対比	2.1	▲0.9	▲0.8	0.4

【広島市受託事業一覧】

受託業務名	3年度	2年度	対比
広島市地域包括支援センター運營業務(包括的支援事業)	41,882,000	41,872,000	10,000
広島市地域介護予防拠点整備促進事業	5,577,000	5,576,000	1,000
合計	47,459,000	47,448,000	11,000

区分	実施結果		
	開催回数・件数等	内 容	
包括的支援事業	総合相談	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議 開催回数 10回 ・地域団体の会議 参加回数 6回 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学区新規総合相談の内訳から「整形疾患」、「内科疾患」が上位の相談である予防方法や対応方法の啓発活動につなげた。 ・個別の処遇検討会議を行うことで担当ケアマネ、地域住民が情報共有し問題解決をした。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待対応 対応件数 22件 ・権利擁護啓発研修会 開催回数 2回 	<p>高齢者虐待対応件数 22件(内8件は警察通報件数)で昨年度の総数を大きく上回っている。</p> <p>地域住民対象の権利擁護研修会、サービス事業所対象研修会を各1回行った。</p> <p>※コロナ禍の影響で計画していた研修会が中止となった。</p>

区分		実施結果	
		開催回数・件数等	内 容
	包括的・継続的 ケアマネジメント支 援	・ケアマネ連絡会・研修会 開催回数 21回	「処遇検討会・個別地域ケア会議」 12回 「ケアマネ自主勉強会」 7回 「主任介護支援専門員ネットワーク研修会」 5回 「佐伯区ブロック研修会」 5回 ※オンライン開催が主流となり、ほぼ計画通りに開催することができた。
	介護予防 ケアマネジメント	・センター職員担当件数 総数 3,733件 1人あたり平均 21.7件	委託職員8名平均 直営119.5件、委託144.8件(直営実施率54.7%) 介護予防プランナー1名平均 45.0件
	その他	・介護予防教室開催回数 口腔機能向上教室 2回 低栄養予防教室 1回 認知症予防教室 3回 運動機能向上教室 3回	公民館、集会所と地域住民の集まりやすい場所を選定し、「介護予防」の視点からセンター独自で介護予防教室を行い、介護予防の重要性を住民に対して啓発を行った。 ※コロナ禍の影響で計画していた介護予防教室が中止となった。
重 点 事 業	地域介護予防拠点整 備促進事業	・介護予防拠点 立ち上げ箇所数 20か所	地域介護予防拠点数が20か所拠点の立ち上げができている。 参加者数 681名。(圏域高齢者人口0.7%) ※コロナ禍の影響で介護予防拠点会場が使用できなくなった。 百歳体操世話人交流会が中止となった。
	高齢者地域支え合い 事業	・事業実施か所数 2か所 ・ネットワーク組織 立ち上げか所数 0か所	観西地区は、年1回のモニタリングの実施、年1回の役員会を行った。登録者45名。 観音地区は、年1回のモニタリングの実施。登録者44名。 八幡地区は、見守り活動のシステム化ができるように地域団体への説明・働きかけを行った。
	在宅医療・介護連携 推進事業	・情報交換会・意見交換会 開催回数 5回	・医師、歯科医師、薬剤師、地域連携室、介護支援専門員、サービス事業所等との連携を図り、佐伯区生活期・回復期連携推進会議を1回行い、ACPの理解に向けた研修会を開催した。(オンライン開催) ・地域住民向けにACPの理解をテーマに研修会を2回開催する。 ・看取りに関する情報交換会、Deathカンファレンス実施(オンライン実施)

区分		実施結果	
		開催回数・件数等	内 容
認知症地域支援 体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座 開催回数 3回 ・認知症サポーター ステップアップ講座 開催回数 3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・五日市観音中学校においても認知症サポーター養成講座を開催することができ、認知症に関する知識の普及啓発に努めた。(オンライン開催) ・各地区3か所で認知症サポーター養成講座を開催することが出来、地域住民に認知症への理解を深めることが出来た。 ・認知症サポーターステップアップ講座を開催することで地域住民による認知症の方への支援方法学んだ。 ・認知症初期集中支援チームへの依頼をし、チーム会議にも参加する事が出来き、対応方法、支援体制について検討した。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケアマネジメント会議 参加回数 2回 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防の配慮から、開催予定の半数を開催する事が出来た。個別のアセスメント・ケアプランに係る質をより一層強化し、「自立支援」に向けての助言・指導ができるようになる。(オンライン開催実施) 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネ事例検討会 開催回数 10回 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防の配慮から、開催場所を検討し、オンライン開催も実施した。対象者の自立を目指した支援が行えるよう、居宅の介護支援専門員のマネジメント能力・アセスメント能力がより向上するように、圏域居宅介護支援事業所のケアマネジャーと伴に事例検討会を開催した。 	

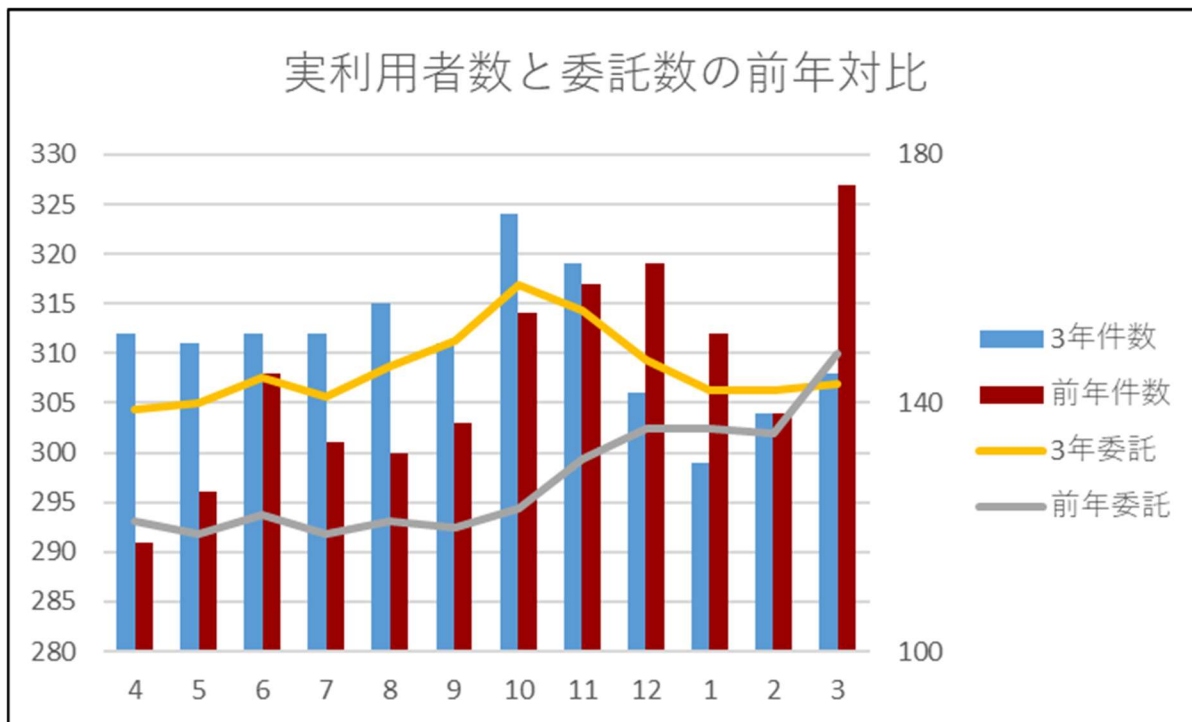
(1)介護予防支援業務

① 利用者の状況

(ア)利用者数月別推移と外部委託件数

3年度は、1月当たりの平均利用件数で、前年を3.4件上回った。外部委託件数は、平均18.1件増加しており、委託比率は46.8%で、前年比5.4%増加した。

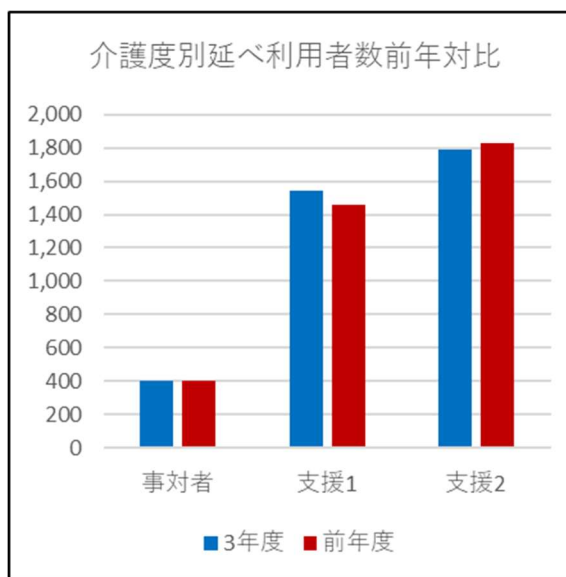
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
3年件数	312	311	312	312	315	311	324	319	306	299	304	308	311.1
3年委託	139	140	144	141	146	150	159	155	147	142	142	143	145.7
3年%	44.6	45.0	46.2	45.2	46.3	48.2	49.1	48.6	48.0	47.5	46.7	46.4	46.8
前年件数	291	296	308	301	300	303	314	317	319	312	304	327	307.7
前年委託	121	119	122	119	121	120	123	131	136	136	135	148	127.6
前年%	41.6	40.2	39.6	39.5	40.3	39.6	39.2	41.3	42.6	43.6	44.4	45.3	41.4



(イ) 介護度別利用者延べ利用者数前年対比

介護度別では、事業対象者が同数、要支援1が82人増、要支援2が41人減少した。

介護度	事対者	支援1	支援2	合計
3年度	400	1,542	1,791	3,733
%	10.7	41.3	48.0	100
前年度	400	1,460	1,832	3,692
%	12.1	39.8	48.1	100
対比	0	82	▲41	41



II. 職員の状況

[]内の人数は部署間異動

地域包括 職種	令和3年度期首(4月)			期中		期末(3月)		
	人数	内非常勤	常勤換算	採用[異動]	退職[異動]	人数	内非常勤	常勤換算
保健師等	2	0	2.0	1	0	3	0	3.0
社会福祉士	2	0	2.0	0	0	2	0	2.0
主任介護支援専門員	2	0	2.0	0	0	2	0	2.0
介護支援専門員	2	0	2.0	0	0	2	0	2.0
合計	8	0	8	1	0	9	0	9

Ⅲ. 令和3年度事業計画の実施状況について

① 介護予防の促進

「介護予防教室」公民館、集会所と地域住民の集まりやすい場所を選定し、「介護予防」の視点からセンター独自で介護予防教室を行い、介護予防の重要性を住民に対して啓発を行った。

教室	回数
口腔機能向上教室	2
低栄養予防教室	1
運動機能向上教室	3
認知症予防教室	3
合計	9

「介護予防拠点整備事業（いきいき百歳体操）」

地域拠点整備促進事業の事業箇所 20ヶ所の拠点運営を行っている。体力測定8か所おこなった（実利用者数681名参加）。

- ・保健事業と介護予防一体的事業の教室（2ヶ所実施）

② 介護予防マネジメントの質の更なる強化

「地域ケアマネジメント会議」 参加回数 2回

地域ケアマネジメント会議に参加する事により、個別のアセスメント・ケアプランに係る質をより一層強化し、「自立支援」に向けての助言・指導ができるようになる。

「圏域内 ケアマネ事例検討会を開催」 参加回数 11回

対象者の自立を目指した支援が行えるよう、居宅の介護支援専門員のマネジメント能力・アセスメント能力がより向上するように、「自立支援」に向けたマネジメントができるよう、毎月、圏域居宅介護支援事業所のケアマネジャーとともに事例検討会を開催した。（オンライン開催）

③ 高齢者地域支え合い事業の推進

- ・観西地区は、年1回のモニタリングの実施（登録者45名）、年1回の役員会を行った。
- ・観音地区は、年1回のモニタリングの実施。（登録者44名）
- ・八幡地区は見守り活動のシステム化ができるように地域団体への説明働きかけを行った。

④ 在宅医療・介護連携の推進

「生活期・回復期連携推進会議 年2回開催」

「生活期・回復期連携推進会議」 年2回

日	テーマ	参加者
5/28	支援者がまず考えようアドバンス・ケア・プランニング 安芸市民病院 緩和ケア部長 松浦将浩 （オンライン開催）	22人

1/25	認知症初期集中支援チームの活動について 「東区認知症初期集中支援チームによる介入と効果」 「佐伯区認知症初期集中支援チーム事業報告」 (オンライン開催)	10人
------	---	-----

「Death カンファレンス研修会」 1回開催

日	テーマ	参加者
3/14	看取りにおける多職種連携会議（模擬デスカンファレンス） ～在宅看取りに不安を感じる長男を精神的にサポートが行えた事例～ (オンライン開催)	22人

「ACP 市民向け教室」 2回開催

日	テーマ	参加者
12/10	今日からの人生を考えてみよう「人生の覚え書き」 (坪井公民館) 広島県 ACP 推進委員 訪問看護ステーション管理者 吉次 浩子	30人
3/16	今日からの人生を考えてみよう「人生の覚え書き」 (八幡公民館) 広島県 ACP 推進委員 訪問看護ステーション管理者 吉次 浩子	15人

「かかりつけ医紹介事業」

- ・かかりつけ医が見つからない相談者に対し4件紹介した。

⑤ 認知症地域支援体制づくりの推進

テーマ	学区その他	日	参加人数
認知症サポーター養成講座	八幡	10/20	24人
	観音西（五観中）	9/24	180人
	広島銀行 五日市支店	6/16	6人
認知症サポーター ステップアップ養成講座	八幡 No.1	10/27	10人
	八幡 No.2	11/17	8人
	八幡 No.3	12/1	8人
消費者被害予防研修	観音西	12/10	8人
権利擁護研修	圏域（サービス事業所研修）	9/29	17人

⑥ その他

(ア) 地域実態把握シートのデータ更新（ICT活用）を随時行うとともに、引き続き、地域資源マップ、介護予防マップ等による情報の活用を進める。「地域社会資源マップ」や介護予防に係るデータを見える化し圏域住民に情報提供を行っている。（iPad による介護予防拠点会場の可視化）

(イ) 地域包括支援センターの広報誌発行し、地域課題の提案、発信をする。(8月、2月 発行)

IV. クレーム対応・・・令和3年度は、苦情報告、対応は1件。

(ア) 申出日：令和3年11月 7日(日) 申出者：見守りサポーター

【内容】

支え合い事業(五観ひまわりネット)サポーターさんより電話連絡がある。4月に支え合い事業の担当者が変更になったにも関わらず、サポーターさんに紹介、説明が無かったこと。登録者(本人)は、要支援2認定者であるにもかかわらず、通所サービス利用については、入浴ができない(運動型サービス)サービス事業所を利用している。適切なサービス利用を調整してほしいと連絡がある。

【対応】

支え合い事業担当者が変更になったことについては、謝辞し改めて担当者を紹介する。介護予防サービス利用については、委託事業所の担当ケアマネさんにプラン内容の変更について検討してもらうように話をする。後日、担当ケアマネより本人とプラン内容について面談し、「入浴」については自分でできるとのことであった為、プランの変更はしませんと連絡がある。